教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第１１号（通算第１７号）
平成２７年１月３０日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修（１月１５日）

心の居場所づくり－Mさんから学んだこと－

小中一貫教育推進課指導主事　本多　真人

静かに降り積もる雪を見ると思い出すことがあります。山の小さな分校で担任したMさんとのことです。新採用２校目、私は１年生担任を命ぜられました。受け持った子は女の子（Mさん）１名。若かった私はMさんを精一杯育てようと意気込んでいました。しかし、現実は厳しいものでした。

入学後しばらく経ってもMさんの硬さはとれませんでした。声も小さく、笑うこともあまりありません。一緒に遊んでいると「友達がほしい」とぽろぽろと涙をこぼし、上学年や本校の子どもたちと交流させても沈んだ様子は変わりません。心を閉ざしているようでした。それもそのはずです。初めての学校生活。ひとりぼっちの教室。担任は男の先生。そして、授業は常に一対一。担任の目の前で結果を出さねばならないという状況はとても辛かったことでしょう。とうとうMさんは体調を崩し入院してしまいました。Mさんのいない教室で私は自分の力不足を痛感しました。Mさんのことをよく見ず、待てず、結果を求めていた自分が情けなくて仕方ありませんでした。Mさんにとって教室は緊張する場で、安心していられるところではなかったのです。私はMさんを育てるどころか、追い込み、不安にしていたのでした。

子どもは「分かってもらえている」「見守ってもらえている」と感じると安心感を覚えます。すると、自分を語り、話をよく聞き、他を受け入れ、自己を省みるようになります。そして、新しいことに進んで挑戦しようとします。安心感はその子のよさを発揮させ、自己実現へ自力で歩み出す足場、つまり、心の居場所を生み出すのです。それゆえ、子どもの目線に立って話を聞く（理解する）、教える、見守る、支える、ほめることは、究極の支援であり、私たち教師にとっての基礎基本と言われるのです。Mさんは小さな体を精一杯使って、とても大切なことを私に教えてくれていたのでした。

その後、教室は少しずつMさんの大好きなところになっていきました。１月、雪が静かに降る日のことでした。ストーブの音が静かに響く中、Mさんは一年の思い出を作文に書いていました。作文も授業も終わりに近づいたころ、Mさんはニヤっとして「私さぁ、春、泣いてばっかりいたよね。」と言いました。大人になったものです。それからぽつり「私ね、大きくなったら先生のお嫁さんになってあげるね。」と言いました。涙が溢れてきました。Mさんと過ごした１年間、私はMさんからたくさんのことを学びました。教室がMさんの心の居場所となり、Mさんも私も成長することができました。Mさんは私の先生でした。

全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修

小中一貫教育実践研修として、標記研修会を１月１５日（木）に開催しました。

ねらい　国立教育政策研究所の「授業アイディア例」を参考に、自分がこれまで行ってきた授業と、そこに示されている授業例を比較したり分析したりすることで自身の授業改善を図る。

対象者　小学５年生を担任している教員の希望者
中学２年生の国語・数学・理科を担当している教員の希望者　その他希望する教員

国語に２名、算数・数学に４名、理科に４名、小中学校計１０名の、意欲に燃えた教員が参加しました。まず、各自が決めてきた事例について自分の考えを整理し、作業シートに記入しました。その後、各自の事例と考えを紹介し合い、授業改善のためのアイディアを出し合いました。

算数・数学グループの教員はいずれも単学級の５年生担任だったこともあり、日々の授業で困っていることや工夫していること等を共有し､他校の実践に学びたいという雰囲気に満ち溢れていました。

調査問題：算数Ｂの３の（３）
あきらさんは、６・７月の使用量が１年間の水の使用量の１／４より多いことを説明します。下の**１**から**４**までのどのグラフを使うと最もわかりやすいですか。１つ選んで、その番号を書きましょう。
１　絵グラフ　２　棒グラフ　３　折れ線グラフ　４　円グラフ　　（※正答は４）

５年生３学期に「割合とグラフ」を学習することから、最初に上記の調査問題が話題となりました。
「折れ線グラフは４年生で学習している。５年生で帯グラフ、円グラフを学ぶことになる。教科書では個別に読み方や書き方が示されているが、これでは調査問題に対応できないのではないか。」
「自分の主張に合うグラフを選ぶ力（目的意識をもって資料を選ぶ力）を育てる授業が大切だ。」

協議をする中で、教科書に載っていた内容をそのまま教えるのではなく、ねらい（育てたい力）に沿った授業展開を考えて実践することの大切さを再確認しました。また、小中一貫カリキュラムの修正について「大仰に構えると負担感だけが増すので、自分が工夫したことや子どもの追求の様子等を朱筆していけばよいのではないか！」という話に落ち着きました。

国語グループや理科グループでも、日々の授業実践における悩みを打ち明けたり授業改善のためのアイディアを出し合ったりするなど、活発な意見交換がなされました。

受講者のアンケートの記述から、参加者が「当該問題の補充指導だけでなく、小中のつながりを意識した指導の重要性をとらえていること」が分かり、授業改善に資する有意義な研修となりました。

国語

算数

理科

【受講者の声】　<u>※今回の研修は役に立った：７０％　どちらかと言えば役にたった：３０％</u>

・小中の意見の交流ができ、言語活動についてとても貴重な意見を多く聞くことができました。
・これからの単元で活かせる場面や手段を具体的に探れてよかった。数直線を書けるように指導していきたい。学力調査までに武器になる見方や考え方、手段を子どもたちに身に付けさせたい。
・実際にどのような授業をされているのかをお聞きでき、すごく勉強になりました。実物をもっと見せ、実生活につなげていけるような授業にしていこうと思います。
・小学校からの学びの連続を踏まえ、自分の授業をどう振り返り、改善していったらいいのか…。いろいろ考えていますが、そうした機会をつくっていただけたらいいなと思います。

三校研修会「冬の陣」…大島中学校区

１月６日（火）９時～１２時、標記の会が大島小学校で開催されました。５月の「総会」、８月の「三校研修会」に続く、大島中学校区の教職員全員が集って行う３回目の研修会です。参加者一人一人が参画意識をもち、積極的に建設的な意見を述べている姿が印象的でした。研修会の様子を紹介します。

【「第９回小中一貫教育全国サミット姫路大会」報告】

①第３分科会における大島中学校区の発表内容をパワーポイントで紹介しました。

②サミット参加者が授業公開を参観した報告を行いました。

・市内から子どもを募集している。専科教員が４名在籍、うらやましい。

・全学級が道徳授業を公開。道徳で心を育てたい。廊下という廊下に活動の写真を掲示。

③星大島中学校長がまとめのミニ講話を行いました。

〔姫路サミットで学んだこと〕	〔三条サミットに生かすこと〕
１　特長を明確に打ち出し、総花的にならない	⇒「人間関係づくりを中核とした取組」の進化
２「評価と検証」をしっかりやること	⇒　小小交流の推進とデータ・資料の蓄積
３　価値・効果の認識「ええもんやなあ」	⇒「ボトムアップ型」や「教職員の学び合い」の充実
４　子どもの姿で示し、語ること	⇒「子どもの学び合い」や「授業の質」を上げる

【乗り入れ授業の報告】

・１０月１５日、中１数学「比例・反比例」を実施。

・小学校の教材の発展がよく見えた。小学校のここをしっかり押さえておくと、中学校の数学が楽しくなると実感できた。

・初めての乗り入れ授業で反省点も多かったが、学ぶことが多かった。

・１１月２５日は須頃小５年、２７日は大島小５年で外国語活動を実施。

・ねらいは身の回りの英語の会話と単語を書くこと。デジタル教科書を活用。

・事前の打合せを２回実施し、児童理解や既習事項等を確認した。

・家庭的な温かみのある学級。児童への極め細やかな接し方を学んだ。

・評価の場面が不足していた。多くの人から参観してほしい。

・１２月２日、中１社会「統合を強めるヨーロッパの国々」を実施。

・中学校社会の免許状があるので、指導案作りも授業も一人で行った。

・小学校教員が単元の導入にどれくらい力を入れているかを、中学校教員に見てほしいと思い、公開した。

・中学校教員が盛り沢山の内容を１時間の授業で指導していることが分かった。

【３学期に乗り入れ授業を行う教員からの構想・アピール】

①小６理科「水溶液」の発展として実施する。小学校教員のアドバイスをいただきたい。

②小５・６の合同体育「バスケットボール」を実施する。中学校的体育の授業を実感してほしい。

③中１国語「漢字の成り立ち」を実施する。小１での指導事項と関連付けて行いたい。

【各部会の相談】※特活、研究、生活生徒指導、特別支援、学校保健、事務

テーマに沿って、３つの視点で白熱した話し合いが行われました。

①ボトムアップにするには　②評価と検証の方法

③事業反省と来年度の取組について

【教科部会＋養教部】

研究部からの提案及び夏休みに検討したことの「まとめ」を受け、来年度に具体的に生かすことを考えました。各教育期における教科の実践の中で力を入れて取り組む事項をまとめました。

【全体会】各部会、教科部会＋養教部会の報告　以下、その一部。

・小４までは「話型」を重視した指導を行い、小５から型にとらわれず話ができる力を育てたい。

・学習用具のすり合わせを行い、共通したものを４月に提案したい。・振り返りの場を大切にする。

「全国サミットｉｎ三条」開催に向けて

年が明け、「第１０回小中一貫教育全国サミットｉｎ三条」の開催まで１０か月弱となりました。「サミット開催に向けて早め早めに情報を提供することで、先生方に関心と参画意識をもってほしい！」という思いから、今号から全国サミット開催に係る情報を、随時掲載していきます。

1　三条市が開催する意義

○「三条スタンダード」（人口１０万人規模の地方都市で、教育課程特例校制度を活用せず、現行の学習指導要領の下で、市内全小中学校で実施する）の姿を全国に発信する。

○本市では、小中一貫教育を導入することで、子どもたちの人間関係や社会力をはぐくむ教育環境を構築し、その中で小中協働による教育活動を展開している。中学校区の枠組みの中で、教職員が『目指す子ども像』をいかに共有することができているか。そして、目標達成に向けた取組をいかに精査し、仕組んでいくことができているのかを公開授業等で披露する。

○「小中一貫教育学校」法制化に伴う情報共有を行うために、文部科学省職員による基調講演と中央教育審議会小中一貫教育特別部会委員らによるシンポジウムを行う。

○文部科学省研究委託事業の成果発表及び書籍、資料等を頒布する。

2　開催日時・内容

※第８号に掲載しましたが、確認の意味で再度掲載しました。

	第１日目	第２日目
期日	平成２７年１０月２２日（木）	平成２７年１０月２３日（金）
会場	授業公開校	嵐南小・第一中
日程	13：30～14：15　小学校授業公開 13：30～14：20　中学校授業公開 14：40～16：00　中学校区協議会 ※大島中区は午前中も授業公開の予定	10：00～11：10　全体会 11：20～12：10　プレゼンテーション 12：30～13：10　ポスターセッション 13：30～15：30　シンポジウム
備考	〔授業公開校〕 ○嵐南小・第一中 （文科省委託協力校、一体校） ○一ノ木戸小・第二中（一体校） ○三条小・裏館小・上林小・第三中 （連携型モデル校区） ○大島小・須頃小・大島中 （文科省委託協力校、連携型小規模校区）	全体会　①開催行事　②基調講演 プレゼンテーション ①小中一貫教育ＰＲ用ＤＶＤ上映 ②教科カリキュラムの紹介 ③全市一斉の評価･点検結果活用に関する調査研究の概要 ポスターセッション（９中学校区） シンポジウム

教育の窓　*～昭和５０年代後半の教育現場のひとコマです～*

念書（Ｃ地域３年、Ｄ地域３年）を終え、地元に戻ってきました。かつて児童数が２千人を超えていた学番１番校も６百数十人にまで減っていました。それでも各学年３学級、前任校の１５倍以上の規模で、町場の子どものパワーに圧倒されました。３回目の５年生担任となり、学年でチームを組んで子どもの指導に当たることが、とても新鮮で、相談できる喜びも感じました。

隣の学年に苗字が同じで１０歳年上の教員がいました。学年主任・体育主任で、学校の中核を担っていました。バリバリと仕事をする姿を見て、「私もあんな先生になりたい！」という憧れの気持ちをもちました。高学年部ということで一緒に活動することも多く、給食のない日は近くの食堂や喫茶店で昼食を食べました。初経験で、戸惑いつつも嬉しかったことを覚えています。

ＰＴＡ活動も盛んでした。（昭和５４年に文部大臣賞を受賞。）恒例のＰＴＡ学年対抗球技大会は盛り上がりました。男性はソフトボール、女性はバレーボール。教員も参加が原則でした。大会でたまたまホームランを打ってしまったばっかりに、ソフトボール部に入会させられました。毎週の土・日は練習＆試合に駆り出され、勝てば祝勝会、負ければ残念会、酒をたくさん飲んで１日が終わりました。翌月曜日は…。若さゆえ、できたこと！今は懐かしい思い出です。（M）